

二神通信

校訓

自主 協力 責任

津久見市立第二中学校
学校通信 第 17 号
令和 1 年 6 月 14 日 (金)
文責 校長 阿部 幸士

津久見市の中学校県総体予選が終わりました。

予選としての競技大会である以上、結果としての勝敗は必ずついてきます。そして、その結果は、自分たちでしっかり受けとめなければなりません。

見事に県総体出場を獲得した皆さん、本当におめでとうございます。皆さんが日頃から積み上げてきた努力と思いが、大きな目標達成につながりましたね。

残念ながら県総体出場とならなかった皆さん、今どんな思いが心の中に渦巻いているのでしょうか。勝負に敗れはしたけれど、皆さんが毎日の練習の中で積み上げてきた努力と大会当日にぶつけた力や思いは、決して消えたわけではありませんよ。大切なことは、頑張れた部分と足りなかった部分をよく見つめて心に刻み込み、自分のこれからにどう生かしていくかだと思います。

今回の大会をとおして、二中生一人ひとりはどうのことを学んだり心に刻み込んだりすることができたでしょうか？

競技した人も応援した人も、それぞれの立場で学び感じたことを大切にしてほしいと思います。



《 応援したある二中生の思い 》

試合に臨む選手一人ひとりの顔が真剣で、よく声も出ていたと思いました。たとえ試合中に点差が開いても、一人ひとりがあきらめずに最後まで真剣にプレーしていた姿は、とてもかっこよかったしとてもすごいことだと感じました。

「試合に出ている人と出していない人の気持ちがいっしょにつながっている！」と感じる、プレーと応援が一体になっている場面を見たときは感動しました。だから、応援する自分たちも、心を込めて大きな声で応援に頑張りました。

